

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念（尊厳と生命を守る実践、地域の人々との協力を大切にしている実践等）を掲げ、玄関や事務所等に掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員研修（4月実施）、定期的開催される職員会議、学習会等の際に、法人の理念を軸に学習・議論を進めている。	○ 引き続き系統的な職員教育を行い、その中の重要項目の一つとして法人の理念や地域との協同の内容を位置づけていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会、運営推進会議、地域の介護者の会等の機会にグループホームの実践報告をさせていただいている。また定期的な通信を発行し、法人の理念の浸透に努めている。	○ 認知症の正しい理解の啓発とともに、地域・家族に対し、機会あるごとに理念の浸透をはかしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の人が野菜を届けてくれたり、遊びに来たり、ボランティアに来てくれたりと、日常的に多くの人が出入りしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年1回の地区の定期総会への参加をはじめ、ホテル祭り、地域の介護者の集い、地域行事に参加している。地域の自治会には、負担が非常に大きいことが予想され、参加していない。	○ 機関紙「くわのみ通信」を事業所の一方的なお知らせではない、地域や支援者の人が紙面に登場できるように充実させ、定期発行できるように検討中である。またパンレットについても内容を検討し、手作り感のあるものにしたい。

岐阜県 グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所の機能を生かして地域の高齢者を一時的にお預かりすることや、管理者・職員が地域での認知症の講話などを引き受け、その啓蒙に努めている。	○	地域とのつながりは、当事業所の「生命線」だと考えている。地域から「孤立」することがないように、「待ち」の姿勢から、地域に「出る」活動を展開していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を年1回の実践の点検の機会と位置づけ、自己評価は管理者・主任・副主任を中心に全職員の意見を反映できるように行っている。結果は職員に伝え、改善に向けた取り組みに生かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3～4月に1回実施し、近況報告や意見交換を行い、サービスの質の向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市高齢福祉課及び地域包括支援センターの職員とは日常的にコミュニケーションを図り、事例を通して具体的な情報交換と連携を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者はある事例で成年後見人にも選任されており、制度の内容については理解している。また東濃成年後見センターの会員として定期的な情報を得ている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修に積極的に参加しており、虐待の防止・早期発見に向けた取り組みを日常的に意識している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書に基づき時間をかけて説明を行い、理解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日常の関わりの中で意見を聞き、不満や苦情に該当すると思われる内容については、職員会議等で対処法の検討を行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書・領収書送付時に1ヶ月の様子をサマリーにまとめ、文書で家族に送付し、利用者の様子をお伝えしている。また定期的に通信を発行し、法人全体の様子をお伝えするとともに、健康状態等に異変があった場合は電話で必ず家族に伝え、対応について確認している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された際、個別に話を伺うとともに、年2回の家族会を開催し、家族の交流と意見をお伺いする場として位置づけている。また、苦情相談に関する掲示等を行い、苦情・意見の受付窓口・解決方法等を明らかにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に主任会議（月1回）、職員会議（月2回）を開催し、職員の意見・提案に耳を傾け、事業所運営に反映している。また個々にも意見を聞く機会を設け、運営に生かしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その日の活動内容や行事等にあわせ職員配置を増員する等、柔軟な勤務調整を実施している。	

岐阜県 グループホームくわのみ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の援助における信頼関係を配慮し、急な職場異動をしないように心がけている。昨年の10月以降の異動は行っていない。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では、「観察と記録の学習会」を定期的に行っている。また月1回の「職員学習会」、年1回の「全職員研修会」を行うとともに、その都度、レポートの提出とその職員へのフィードバックに努めている。外部研修への参加も奨励し、研修費等の援助を行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「観察と記録の学習会」には地域の同業者も参加し、学習と交流を深めている。また、名古屋市と南知多町のグループホームとの学習と交流の機会を持っている。	○	名古屋市のグループホーム（街のグループホーム）と南知多町のグループホーム（海のグループホーム）との交流・学習は、お互いの実践から学ぶ機会として、今後とも発展させていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者・主任・副主任が職員のストレス情報をキャッチした段階で、意図的にコミュニケーションを図り、ストレスマネジメントに努めている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の能力に応じ、課題設定を行い目標を持って働けるよう努めている。その為状況に応じて面談の機会を持っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の方が対象であり相談等は家族によるが、利用前には本人にも会い話をする機会をを設けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	市の認知症相談窓口にもなっており、直接利用に至らないケースであっても話を聞く努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同事業所内に複数のサービス事業者を有しており、それらの利用はもちろん、他事業所の利用・行政等との連携も視野に入れている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の見学や、短期間の空ができた時の体験入居も勧めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	午前・午後にお茶を飲む時間がある。それ以外でも、利用者と一緒にテーブルを囲むことでゆっくりと会話の時間をもつなかで、貴重な話が聞けたり学ぶことも多い。	

岐阜県. グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月一度の近況報告をし、体験を共有してもらうようにしている。家族会・日帰り旅行の実施や、面会時などの機会にできるだけ話しをするようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用開始時に家族関係も含めしっかり話を聞くようにしている。そのことを前提に、無理のないよう時間をかけて関係づくりをしていくよう心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣であれば出掛けていくようにしている。遠方であると、人手・時間の問題で難しい。面会は時間を設けずに受け入れている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症の重症度も様々で関係作りは難しい面もあるが、職員が間に入ることで調整を図っている。	○	ケアプランの中に他利用者との関係作りまでは組み込まれていないので、検討していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	基本的には最後まで利用いただけるような取り組みを目指している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で意思表示できる方には話を聞くようにし、困難な場合は日々の言動や過去の情報をもとに努力している。	○	なかなか本音を話さない方からの意向を引き出す努力をしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを用いており、家族・本人から情報を聞くようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のアセスメントをすることで、多方面からの状況把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を出来るだけ全職員が関わって作成するようにしている。	○	利用が開始されると、家族からの意向があまり聞かれなくなる。家族を巻き込んだプラン作りがしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとにモニタリングを行っているが、急激な変化、変動する心身状況では、プランが後追いになりやすい。		

岐阜県. グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は用紙の見直し工夫をし、書きやすい、見やすいものを心がけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模の小回りの効く利点を生かして、柔軟に取り組むようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアはもちろん、他機関との連携をされており、地域の中で多くの人に存在を知られている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者とも関係が出来ているので、必要があれば連携がとれる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの関わりは日頃よりあるので、必要な時には協働できる。		

岐阜県 グループホームくわのみ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用開始時にかかりつけ医の希望を確認。必要な時には、本人・家族の意向を聞いて支援するようにしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>すでに専門医の治療を受けている利用者があり、相談できる関係作りができています。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>同事業所内に、訪問看護ステーションがあり、週に一度は健康状態の報告をし、アドバイスをもらっている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>日頃より、訪問看護にも協力してもらい、病院・医師との連携をスムーズに行えるようにしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用開始時に意向の確認をしている。また、必要に応じて話し合いをしている。</p>	○	<p>本人・家族にとっては好まない話題であり、早期からの繰り返しての話し合いは充分でない。</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>出来ること、できないことは、必要に応じて検討している。</p>	○	<p>個々のケースについてはその時々で対応しているが、施設としての取り組みの方針を検討していきたい。</p>

岐阜県 グループホームくわのみ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族・関係者との連絡調整・情報交換は必ず行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄・整容・入浴時などの支援は、本人のペースに合わせてさりげなく対応する様心がけている。個人情報についても、注意深く慎重に取り扱っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	今日一日をどう過ごそうか？何をしようか？日々、利用者様と一緒に活動を決めている。	○	ご自分から希望を表せる人は良いが、表せない人に対しての働きかけが難しく十分とは言えない。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは特に決まっておらず、利用者の希望を最優先している。活動も強制はせず、その人のペースを大切にしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容師資格のある職員が、1～2ヶ月に1回カットを行っている。利用者からの要望に応じて、カラーリングやパーマも行っている。		

岐阜県 グループホームくわのみ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>できる事が多い人に対する支援はしやすいが、少ない人に対する支援の仕方や対応の仕方が難しい。</p>

岐阜県 グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者から、お金を持ちたいと言う要望がほとんどでないので、現在は事務所で管理している。	○	利用者が欲しい物があつた時は立て替え払いをしているが、それでは気兼ねして欲しい物を我慢してみえるのかもしれない。自己管理できる人に対しては、自己管理してもらうことも検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望で、散歩や買い物・ドライブにはよく出かけている。隣接するデイサービスにも、散歩がてら遊びに行ったり届け物をしたりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に一回、利用者の家族やボランティアさんと一緒に日帰り旅行を行っている。その他に四季折々の花を観にでかけたり地域のお祭りを見物に出かけたりもしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば、ご家族に電話をかける様支援している。自分でかけれる方は、自分で電話されている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人・親戚の方など多くの方が訪問されている。居室・リビング・デッキなど、本人のくつろげる空間でゆっくりお話しして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行っていない。ただしベッドからの転落等が予測される場合には、本人や家族に了解を得た上でベッド柵をする場合がある。		

岐阜県 グループホームくわのみ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	職員学習会等の機会、日々の申し送りの中で日常的にリスクに対する意識をもち実践ができるようにしていきたい。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	今後も定期的に行っていく。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	消防法の改正実施も予定されており、災害時を想定した避難訓練や消火訓練をはじめ、予防意識や設備管理の意識を高め実践できるよう、定期の学習・会議の場を設けていきたい。

岐阜県 グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	随時、家族と電話・面接にて話をし、対応策について家族の確認の上で実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行いその日の利用者様の体調を確認している。 異常時は、看護師に診てもらい必要であれば病院受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	翌日の薬のセットは夜勤者が行う為、日中しか勤務に入らない職員は十分に薬の目的・用法について理解できていないのが現状。	○	薬の成分表を、各自チェックし全員が理解できている様に努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の人に対しては、毎朝センナ茶を飲んでいただくたりヨーグルトを食べたりと便秘対策している。 排便チェック表で毎日の排便状況を確認し、個々に対応している。	○	全体的に運動不足なので、活動量を増やして便秘予防に努めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前は、義歯を預り消毒を行い口腔ケアをして休んでいただいている。 毎食後は、食べかす等が気になると訴えのある方には口をすすぐ等している。	○	全員、毎食後の口腔ケアを徹底する。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食記入している。 利用者様一人ひとりの体格や病気（糖尿等）を考慮して食事量を調整している。	○	記録に、水分摂取量を記入する枠がないので、作成して一人ひとりの水分摂取量がわかる様にする。

岐阜県. グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルを作成している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は賞味期限を遵守し、料理はその食事ごとに食べきり、次回に回すことはしていない。また、布巾・まな板・包丁は夜、キッチンハイターで消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の玄関は日中鍵をかけず、誰もが出入りしやすいオープンな環境にしてある。スロープやデッキ周りにはプランターの花を飾り明るい雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには四季折々の花を飾り、季節感を感じられる様にしている。なつメロや動揺など、利用者のお好きな曲をBGMとして流している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキに籐の椅子を置いたり、リビングに外が眺められる様な位置でソファを置くなどして、一人になれる空間を作れる様にしている。		

岐阜県. グループホームくわのみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔から使ってみえた馴染みの品を持ち込んでみえる人は少ない。	○	家族にも呼びかけ、使い慣れた物品の持込をしてもらい、その人らしく居心地の良い居室作りができる様取り組んでいる・
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は、居室の窓を開け空気を入れ替えている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等に手すりの設置。浴室にはシャワーチェアを置き、滑り止めを設置。居室のベッドはスリーモーターの電動ベッドを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居したばかりの人等、居室の場所が分からない人に対しては、一時的に居室ドアに名前を書いた貼り紙をして認識してもらっている。	○	本人の意見を尊重して居室の表示のあり方等を検討していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	デッキ周りにはプランターや花壇を作り、利用者が水やり等の管理をしている。天気のよい日には、デッキにてお茶を飲んだり、日向ぼっこをしている。また利用者が、外周りの畑に野菜等（きゅうり・なす・いちご・栗など）の収穫に行く。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

岐阜県 グループホームくわのみ

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

特に決まった日課は決めず、利用者一人一人の意向を尊重したケアに努めている。恵まれた自然環境を利用して畑の旬の野菜を収穫したり、調理して食べることで、できる限り外出し自然に触れることを重視している。地域の人々との交流を大切にし、地域の「当事者と介護者の会」(まめな会)の集いに参加したり、地域のお祭りや催し物に出かけたり、地域のボランティアを積極的に受け入れている。また地域で生活する認知症以外の障害を抱えた人たちの相談やスタッフとしての受け入れ、就労支援にも前向きに取り組んでいる。